

資料 1

【評価基準】

- V：年度計画を大幅に上回って実施している。
- IV：年度計画どおり実施している。
- III：年度計画を概ね実施している。
- II：年度計画を十分には実施していない。
- I：年度計画を実施していない。

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>地方独立行政法人市立秋田総合病院中期計画（以下「本計画」といいます。）は、地方独立行政法人市立秋田総合病院の発足後第1期の中期目標を達成するために策定するものであり、以下の理念と基本方針の下、地方独立行政法人制度の持つ自律性や柔軟性を最大限発揮し、効率的な業務運営を行うとともに、地域の中核的な公的医療機関として、がん診療をはじめとした高度・専門医療や救急医療、小児・周産期医療など、地域に必要な医療を継続的に提供することにより、市民の健康の維持および増進に努めます。</p> <p>理念 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。</p> <p>基本方針 1 常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。 2 患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を行います。 3 医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。 4 職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。 5 業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。</p>						

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																																	
<p>第1 本計画の期間 本計画の期間は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までとします。</p> <p>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 良質で安全な医療の提供 地域における中核的な公的医療機関として、市民の多様なニーズに応え、市民の健康の維持および増進に寄与するため、医療機器の整備等により、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患の5疾病に対応する医療や救急医療などを提供します。</p> <p>(1) 高度・専門医療の提供 市立秋田総合病院の行う高度・専門医療を充実させるため、医療機器の計画的な更新・整備を行うとともに、医療従事者の専門性を高めることなどにより、診療機能の向上に努めます。</p> <p>ア がんへの対応 秋田県がん診療連携推進病院として、引き続き、がんに対する難易度の高い外科的治療をはじめ、低侵襲の非外科的治療、化学療法および放射線治療を行うとともに緩和医療を効果的に行い、集学的治療を実施します。</p>	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 良質で安全な医療の提供 地域における中核的な公的医療機関として、市民の多様なニーズに応え、市民の健康の維持および増進に寄与するため、医療機器の整備等により、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患の5疾病に対応する医療や救急医療などを提供します。</p> <p>(1) 高度・専門医療の提供 市立秋田総合病院の行う高度・専門医療を充実させ、最新・最適な医療を提供するため、医療機器を更新するほか、新たな治療法に対応する医療機器等を整備します。加えて専門的な研修の受講等により医療従事者の専門性を高め、診療機能の向上に努めます。</p> <p>ア がんへの対応 秋田県がん診療連携推進病院として、引き続き、がんに対する難易度の高い外科的治療をはじめ、低侵襲の非外科的治療、化学療法および放射線治療を行うとともに緩和医療を効果的に行い、集学的治療を実施します。 具体的には、大腸がん肝転移に対しては、手術と化学療法を組み合わせた集学的治療を推し進め、増え続ける大腸がん患者の治療成績の向上を図ります。 また、膵がんに対する治療では、切除可能かどうかの判断が難しいポーターライン症例に対して術前化学療法+放射線療法を積極的に行い、根治性を高めてから手術を行って、その治療成績の向上を図ります。 また、肝がんについて、低侵襲手術である腹腔鏡下肝切除を推進するとともに、胃がんについても腹腔鏡下の胃がん切除症例の増加を図ります。 さらには、乳がんについては、ハイリスク乳がん患者に対して乳房MRI検査を新たに実施し、乳がんの早期発見に努めます。</p>		1	<p>【業務実績】 秋田県がん診療連携推進病院の指定更新を受け、手術、非外科的治療、放射線療法および化学療法等を効果的に行い、集学的治療を実施しました。 大腸がん肝転移について手術と化学療法の組み合わせによる治療を40例実施したほか、膵がんについて術前化学療法と放射線療法を行ってからの手術症例として、7例実施しました。 乳房MRI検査は、自己負担が高額になるため、需要が見込まれないとの判断から実施に至りませんでした。 新たな治療法に対応する医療機器として、腹腔鏡下肝切除術に必須の機器サージカルティシュー・マネジメントシステムを導入し4例実施したほか、以下のとおり医療機器の整備・更新を行いました。 がん診療に係る治療成績等については、がん治療支援部を中心として分析評価しました。 また、秋田大学医学部教授を講師に迎えてのキャンサーボード(※)の開催や院内がん登録を実施し、がん診療の質の向上に努めました。 また、患者のQOLを維持するため、リハビリテーションを積極的に実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科的手術 366件（前年度408件） ・胸腔鏡・腹腔鏡手術 83件（前年度56件） ・内視鏡手術 113件（前年度111件） ・化学療法 2,863件（前年度3,480件） ・放射線治療 4,027件（前年度3,874件） ・キャンサーボード開催数 10回（前年度2回） ・院内がん登録 814件（前年度875件） ・がん患者リハビリテーション 1,638件（前年度151件） <p>※キャンサーボード：がん医療に携わる専門職が集まり、個々の患者の状態に応じた適切な治療を検討する場</p> <p>平成26年度購入医療機器(400万円以上)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>金額</th> <th>区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X線骨密度測定装置</td> <td>27,972,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>セントラルモニター式</td> <td>24,408,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>超音波診断装置</td> <td>12,830,400</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>一般撮影用フラットパネルディテクター</td> <td>11,340,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>ストルツ ハイビジョン・カメラシステム</td> <td>10,281,600</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>関節鏡手術機器一式</td> <td>10,201,680</td> <td>補充</td> </tr> <tr> <td>手術用ベッドサイドモニター</td> <td>7,344,000</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>サージカル ティシュー・マネジメントシステム</td> <td>4,911,494</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>減圧式沸騰式洗浄装置</td> <td>4,806,000</td> <td>新規</td> </tr> <tr> <td>眼科外来検査システム</td> <td>4,166,640</td> <td>新規</td> </tr> </tbody> </table>	品名	金額	区分	X線骨密度測定装置	27,972,000	更新	セントラルモニター式	24,408,000	更新	超音波診断装置	12,830,400	更新	一般撮影用フラットパネルディテクター	11,340,000	更新	ストルツ ハイビジョン・カメラシステム	10,281,600	新規	関節鏡手術機器一式	10,201,680	補充	手術用ベッドサイドモニター	7,344,000	更新	サージカル ティシュー・マネジメントシステム	4,911,494	新規	減圧式沸騰式洗浄装置	4,806,000	新規	眼科外来検査システム	4,166,640	新規	Ⅲ	
品名	金額	区分																																					
X線骨密度測定装置	27,972,000	更新																																					
セントラルモニター式	24,408,000	更新																																					
超音波診断装置	12,830,400	更新																																					
一般撮影用フラットパネルディテクター	11,340,000	更新																																					
ストルツ ハイビジョン・カメラシステム	10,281,600	新規																																					
関節鏡手術機器一式	10,201,680	補充																																					
手術用ベッドサイドモニター	7,344,000	更新																																					
サージカル ティシュー・マネジメントシステム	4,911,494	新規																																					
減圧式沸騰式洗浄装置	4,806,000	新規																																					
眼科外来検査システム	4,166,640	新規																																					

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
				<p>【特記事項】 緩和ケア外来を平成26年5月に再開したほか、手術後の誤嚥性肺炎等の合併症等のリスクを軽減するため、周術期の口腔ケアを積極的に行い、がん患者の入院生活の質の向上に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア外来受診数 44人 ・周術期口腔機能管理 775件（前年度479件） <p>【自己評価の理由】 腹腔鏡手術の増加や緩和ケア外来を再開したが、化学療法やがん登録数などが減少したことによる。</p>		
イ 脳卒中への対応 脳卒中をはじめとした脳血管疾患に対しては、救急医療に対応する体制を維持するとともに、急性期および回復期リハビリテーションの充実に努めます。	イ 脳卒中への対応 脳卒中をはじめとした脳血管疾患に対しては、救急医療に対応する体制を維持するとともに、急性期および回復期リハビリテーションの充実に努めます。		2	<p>【業務実績】 夜間休日を含めた24時間CT・MRI検査体制を継続し、超急性期脳卒中加算の届出施設として急性期の脳卒中患者に対する救急体制を維持しました。 また、入院早期からリハビリテーションを積極的に実施したほか、回復期については、医療機能分化による地域医療機関への逆紹介に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患リハビリテーション 4,278件（前年度3,818件） <p>【特記事項】 常勤医が不在の神経内科に常勤医師を確保し、脳血管疾患分野の診療体制の強化を図りました。</p> <p>【自己評価の理由】 脳血管疾患系の診療体制の強化による。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由															
ウ 急性心筋梗塞への対応 24時間対応可能な冠動脈カテーテル治療とその後のICUでの管理により、更なる救命率の向上を目指します。	ウ 急性心筋梗塞への対応 24時間対応が可能な冠動脈カテーテル治療とその後のICUでの管理により、更なる救命率の向上を目指します。		3	<p>【業務実績】 24時間対応が可能な冠動脈カテーテル治療体制を維持し、その後のICUでの適切な管理を行いました。 また、治療後は、心大血管疾患リハビリテーションを積極的に取り入れ、予後の改善に取り組みました。</p> <p>・救命率 90.5% (前年度 89.9%) ・冠動脈カテーテル治療 79件 (前年度108件) ・心大血管疾患リハビリテーション 3,667件 (前年度3,314件)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="5">冠動脈カテーテル治療件数</th> </tr> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> <tr> <td>113</td> <td>102</td> <td>117</td> <td>108</td> <td>79</td> </tr> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 冠動脈カテーテル治療について24時間対応できる体制を維持したが、件数が減ったことによる。</p>	冠動脈カテーテル治療件数					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	113	102	117	108	79	Ⅲ	
冠動脈カテーテル治療件数																					
22年度	23年度	24年度	25年度	26年度																	
113	102	117	108	79																	
エ 糖尿病への対応 チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等の糖尿病治療を提供するとともに、予防目的を含めた糖尿病教室を引き続き定期的に開催することにより、患者の意識啓発等の推進に努めます。	エ 糖尿病への対応 チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等の糖尿病治療を提供するとともに、予防目的を含めた糖尿病教室を引き続き定期的に開催することにより、患者の意識啓発等の推進に努めます。		4	<p>【業務実績】 食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせたチーム医療による糖尿病の教育入院を実施したほか、患者の意識啓発のため定期的に糖尿病教室を開催しました。</p> <p>・糖尿病教育入院 29件 (前年度12件) ・糖尿病教室 13回 (前年度13回)</p> <p>【特記事項】 新たに糖尿病フットケア外来(※)を開設し、糖尿病性足病変患者の受入れ体制を整備しました。</p> <p>※糖尿病フットケア外来 糖尿病に伴う血行障害等を起因とする潰瘍等の足病変のケアを行う外来</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	Ⅳ																

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>オ 精神疾患への対応</p> <p>市内における総合病院で唯一の精神科の閉鎖病棟を引き続き運営します。</p> <p>また、高齢化に伴い身体合併症を有する患者が増加していることから、身体合併症を有する精神疾患の対応病院としてその役割が増大しており、今後も急性期入院治療をはじめとする総合病院に求められる精神医療の充実に努めます。</p>	<p>オ 精神疾患への対応</p> <p>市内における総合病院で唯一の精神科の閉鎖病棟を引き続き運営します。</p> <p>身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、総合病院に求められる精神医療の充実に努めます。</p> <p>また、統合失調症や気分障害などの急性期入院治療、多様化と重症化する神経症圏の病態（摂食障害や人格異常など）への外来・入院治療に加え、児童思春期精神医療への積極的な取り組みを行います。</p>		5	<p>【業務実績】</p> <p>秋田周辺医療圏において精神科閉鎖病棟をもつ唯一の総合病院として、身体合併症を有する精神科患者の受入れを行いました。つたほか、統合失調症や気分障害などの急性期入院治療を行いました。</p> <p>また、神経症圏の病態への治療に加え、児童思春期精神医療へ取り組みました。</p> <p>またそのほか、心理教育の一環として引き続きうつ病教室を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科身体合併症入院 65件（前年度67件） 統合失調症入院 86件（前年度87件） 気分障害入院 82件（前年度76件） 神経症圏新患 157件（前年度161件） 児童思春期精神医療新患 45件（前年度31件） <p>・うつ病教室 3回開催（前年度3回開催）</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】</p> <p>精神科閉鎖病棟を維持したが、身体合併症入院が減少した年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	Ⅲ Ⅳ	
<p>(2) 救急医療の提供</p> <p>心筋梗塞、急性腹症、脳卒中などへの緊急対応も可能な二次救急医療機関として、24時間365日の対応を継続します。</p>	<p>(2) 救急医療の提供</p> <p>救急外来において24時間365日、救急患者の受入れを行うとともに、ICU（集中治療室）において、急性心筋梗塞、院外心肺停止、心不全、アナフィラキシーショック、大量薬物中毒等の重篤患者に高度の集中治療を行います。</p>	<p>【26年度計画目標指標】</p> <p>救急搬送患者受入件数：2,200件</p>	6	<p>【業務実績】</p> <p>救急外来患者は22,998件（前年度22,922件）と前年度に比べ増加しました。特に救急外来からの入院患者が2,003件（前年度1,837件）と増加しました。</p> <p>救急搬送は1,992件（前年度2,023件）あり、秋田周辺医療圏の二次救急病院として地域の救急医療の一翼を担いました。</p> <p>なお、救急搬送の受け入れに至らなかったケースとしては、心肺停止などの他の重症患者の処置中だった、救急室の処置ベッドが満床だったなどの理由により、44件ありました。</p> <p>また、日本集中治療医学会専門医研修施設として、ICUで高度の集中治療を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICU利用件数 1,607件（前年度1,482件） <p>【特記事項】</p> <p>救急科に常勤医を増員し、救急医療体制の強化を図りました。</p> <p>【自己評価の理由】</p> <p>救急搬送患者受入件数は達成できなかったが、救急外来患者数およびICUでの集中治療が増加したことによる。</p>	Ⅲ	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																		
<p>(3) 採算性が低い医療の提供 採算性が低く民間医療機関では提供が不十分な医療については、市が設置する医療機関の公的使命として、今後も継続して提供します。</p> <p>ア 結核医療 結核病床を有している秋田周辺医療圏内で唯一の医療機関であることを踏まえ、秋田県医療保健福祉計画や結核患者数の動向を見据えながら、地域において求められる結核病床数を維持し、引き続き結核医療を提供します。</p>	<p>(3) 採算性が低い医療の提供 採算性が低く民間医療機関では提供が不十分な医療については、市が設置する医療機関の公的使命として、今後も継続して提供します。</p> <p>ア 結核医療 結核病床を有している秋田周辺医療圏内で唯一の医療機関であることを踏まえ、地域において求められる結核病床数を維持し、引き続き結核医療を提供します。 また、今後増加することが予測される潜在性結核感染症患者の診断と治療に積極的に取り組みます。</p>		7	<p>【業務実績】 採算性が低く民間医療機関では実施が困難な結核医療を引き続き提供しましたほか、保健所の結核接触者健診等により潜在性結核感染症（※）が確認された7名（平成25年度18名）に対し、結核の発症予防のための治療を行いました。</p> <p>・結核病床入院患者数—2,487人（前年度2,976人）—</p> <p>※潜在性結核感染症 結核菌に感染しているが、結核を発症していない状態</p> <p>結核病床(22床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率</td> <td>46.3</td> <td>41.5</td> <td>41.7</td> <td>37.1</td> <td>31.0</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,715</td> <td>3,339</td> <td>3,345</td> <td>2,976</td> <td>2,487</td> </tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 結核病床を維持し、年度計画どおりに実施できたことによる。</p>		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	病床利用率	46.3	41.5	41.7	37.1	31.0	入院延患者数	3,715	3,339	3,345	2,976	2,487	IV	
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度																			
病床利用率	46.3	41.5	41.7	37.1	31.0																			
入院延患者数	3,715	3,339	3,345	2,976	2,487																			
<p>イ 精神医療 (1)のオの精神疾患への対応のとおり、精神医療の充実に努めます。</p>	<p>イ 精神医療 (1)のオの精神疾患への対応のとおり、精神医療の充実に努めます。</p>		8	<p>【業務実績】 (1)のオの精神疾患への対応のとおり、精神医療を実施しました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 精神科閉鎖病棟を維持したが、身体合併症入院が減少した年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	Ⅲ IV																			

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(4) 健診体制の充実 市民の疾病の予防や早期発見・早期治療のため、きめ細かな検診項目の設定や利便性の向上に配慮しながら、引き続き人間ドックをはじめ、企業検診の受託などを行います。</p>	<p>(4) 健診体制の充実 市民の疾病の予防や早期発見・早期治療のため、健康管理センター運営協議会においてきめ細かな検診項目の設定や利便性の向上について検討し、人間ドックの充実を図るほか、特定健診・特定保健指導や企業検診の受託などを行います。</p>		9	<p>【業務実績】 新たにがん腫瘍マーカー検査や胃がんの主な原因とされるピロリ菌の検査を人間ドックのオプション項目に追加したほか、健診システムの導入による結果報告期間の短縮等利便性の向上に努めました。 また、特定健診・特定保健指導や企業検診の受託などを積極的に行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間ドック 1日ドック 1,113件（前年度1,158件） 2日ドック 370件（前年度407件） 人間ドックオプション 腫瘍マーカー検査 337件 ピロリ菌検査 242件 特定健診 421件（前年度448件） 特定保健指導 25件（前年度19件） 企業検診 90件（前年度76件） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(5) 医療安全対策等の強化 ア 医療安全対策の強化 職員からのインシデント・アクシデント報告を徹底させ、毎月開催する医療安全対策委員会での分析を行いリスクを回避する方策を立案するなど医療安全対策に取り組むとともに、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて医療安全についての意識の向上を図り、引き続き医療を安全に提供できるよう努めます。</p> <p>【中期計画目標指標】 インシデント報告数：1,100件 医療安全に関する教育・研修会開催数：20講座</p>	<p>(5) 医療安全対策等の強化 ア 医療安全対策の強化 職員からのインシデント・アクシデント報告を徹底させ、毎月開催する医療安全対策委員会での分析を行いリスクを回避する方策を立案するなど医療安全対策に取り組むとともに、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて医療安全についての意識の向上を図り、引き続き医療を安全に提供できるよう努めます。 また、院内暴力の抑止のため、警備員の24時間配置を継続します。</p>	<p>【26年度計画目標指標】 インシデント報告数：1,000件 医療安全に関する教育・研修会開催数：18講座</p>	10	<p>【業務実績】 インシデントやアクシデント報告に基づき医療安全対策委員会や対策部会において、実効性のある事故発生防止策を検討し、それを全職員に周知徹底しました。ほか、全職員に対し、年2回以上の研修受講を義務付け、医療安全の確保に努めました。全職員対象の安全対策研修には、1回目が対象職員740人の89%にあたる661人、2回目が対象職員745人の82%にあたる611人が受講しました。 またそのほか、警備員の24時間配置を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> インシデント報告数：931件（前年度932件） 医療安全に関する教育・研修会 14講座延べ32回開催、延べ1,614人参加（前年度11講座延べ24回開催、延べ1,381人参加） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 インシデント報告数は、1月頃まで順調に推移していたが、年度後半に減少したことによる。</p>	III	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由						
<p>イ 院内感染防止対策の強化 院内感染対策チームによる週1回の院内巡回や情報の収集、調査、分析、対策の立案等により院内感染の防止を図るほか、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて院内感染についての知識の習得と意識の向上を図り、引き続き病院全体として院内感染防止に取り組めます。</p>	<p>イ 院内感染防止対策の強化 毎月開催の院内感染対策委員会や院内感染対策チームによる週1回の院内巡回により、院内感染に係る情報の収集、調査、分析、対策の立案等を行い、感染対策専用掲示板や院内情報ネットワークの活用により情報の周知に努めて院内感染の防止を図ります。 また、全職員に対し年2回以上の研修受講を義務付けて院内感染についての知識の習得と意識の向上を図り、引き続き病院全体として院内感染防止に取り組めます。 さらには、感染防止対策地域連携加算の算定病院として、連携病院の評価を受け、感染防止対策の実効性を高めます。</p>		11	<p>【業務実績】 院内感染対策チームで感染情報の調査、分析、対策の立案等を行い、それを院内情報ネットワーク等で周知しましたほか、院内巡回を毎週行いました。 また、冬期間の季節性疾患の流行時には、入院患者への面会制限を実施したほか、西アフリカでのエボラ出血熱の大流行をうけ、各出入りにポスターを掲示し注意喚起を行いました。通年の面会者対応として、全面会者に面会受付票を記載してもらうとともに、面会者の動線を限定するために各階のエレベーターホールにベルトパーティションを設置しました。 また、全職員を対象とする血液・体液処理の実践を始めとした全職員対象の感染防止対策研修には、2回参加が対象職員751人の63%にあたる472人、1回参加が28%にあたる213人受講しました。感染研修を実施しました。 また、地域の連携病院から当院の感染対策に関する評価を受け、改善に繋がるとともに、その評価の均質化や質の向上をはかるための合同カンファレンス（※）を開催し、より実効的な感染対策に努めました。 なお、新規MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）発生率は、以下のとおりです。</p> <p>・感染防止対策研修—5回開催、延べ1,282人参加 —（前年度—7回開催、延べ1,288人参加）— ・連携病院による評価 2回 ・合同カンファレンス 4回開催、3医療機関参加、延べ75人参加（前年度 4回開催、3医療機関参加、延べ60人参加）</p> <p>※合同カンファレンス 感染防止対策についての課題解決や連携病院と実施している相互評価の質の向上等をはかるため、地域の連携病院と開催しているカンファレンス 新規MRSA平均発生率</p> <table border="1" data-bbox="1234 1050 1503 1102"> <thead> <tr> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.72</td> <td>0.91</td> <td>0.86</td> </tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	24年度	25年度	26年度	0.72	0.91	0.86	IV	
24年度	25年度	26年度										
0.72	0.91	0.86										

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(6) 女性と子どもに優しい病院づくり 女性特有の疾患に関する医療や小児医療の充実を図り、女性と子どもに優しい病院を目指します。</p> <p>ア 女性に優しい病院づくり 乳がんや子宮がんなど女性特有の疾患に関する医療の一層の充実を図るとともに、女性が受診・相談しやすい医療環境の整備に努めます。</p>	<p>(6) 女性と子どもに優しい病院づくり 女性特有の疾患に関する医療や小児医療の充実を図り、女性と子どもに優しい病院を目指します。</p> <p>ア 女性に優しい病院づくり 乳がんや子宮がんなど女性特有の疾患に関する医療の一層の充実を図るとともに、日中は来院できない市民のため夕方に秋田市の乳がん検診を行う「夕暮れ乳がん検診」を引き続き実施するなど、女性が受診・相談しやすい医療環境の整備に努めます。</p>		12	<p>【業務実績】 乳がん患者のセルフケアや乳房切除に伴う心理面のケア等のため、乳がん看護認定看護師を養成しました。 また、日中は来院できない市民のため、25年度から実施している夕暮れ乳がん検診に加え、26年度は夕暮れ子宮頸がん検診も実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕暮れ乳がん検診 326件（前年度138件） ・夕暮れ子宮頸がん検診 95件 <p>-----</p> <p>【特記事項】 夕暮れ検診について乳がん検診の周知に加え子宮頸がん検診を開始したことにより、受診者が大幅に増加しました。</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>イ 小児医療体制の充実 小児科医が平日24時間診療を行う小児科救急を引き続き実施するとともに、アレルギー外来の充実を図り、秋田市の目指す「子どもを生み育てやすい環境づくり」の一翼を担います。</p>	<p>イ 小児医療体制の充実 小児科医が平日24時間診療を行う小児科救急を引き続き実施するとともに、アレルギー外来において検査体制と治療の充実を図り、秋田市の目指す「子どもを生み育てやすい環境づくり」の一翼を担います。</p>		13	<p>【業務実績】 近隣の小児科医等の地域医療機関の協力を得て、平日24時間小児科医が常駐する小児科救急外来を運営し、市内外から多くの利用がありました。 また、小児科においては、アレルギー外来や子どもの心相談外来などの専門外来を強化し、きめ細かな小児医療の提供に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科救急外来受診者数 9,897人（前年度10,072人） ・小児食物アレルギー負荷検査 113件（前年度34件） <p>-----</p> <p>【特記事項】 小児科救急外来の運営により秋田市内の総合病院における6歳未満の時間外初診患者の約70%を当院が受け入れました。</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ウ 産科医療の充実 緊急母体搬送の受入れを行うほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供します。	ウ 産科医療の充実 緊急母体搬送の受入れを行うほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供します。 また、秋田県産婦人科医会等が実施する「妊娠中からの子育て支援事業」に参加し、秋田市と連携して患者の妊娠・出産・育児に関する悩み等に対応します。		14	<p>【業務実績】 近隣の医療機関と連携をとりながら、緊急母体搬送の受入れを行ったほか、合併症妊娠や切迫流産の管理など、正常分娩以外にも対応しました。 また、秋田大学医学部産婦人科や県内の総合病院と毎月テレビ会議を開催し、症例カンファレンスやガイドラインの確認などを行い、医療技術の向上と連携強化を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩件数 254件（前年度254件） ・緊急母体搬送受入 1件（前年度4件） <p>-----</p> <p>【特記事項】 秋田県産婦人科医会等が実施する「妊娠中からの子育て支援事業」に参加し、養育支援が必要と思われる妊産婦について、保健所に情報提供を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中からの子育て支援事業実績 13件 <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
エ 遺伝カウンセリング外来の運営 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関してカウンセリングを行い、遺伝病等に関する詳しい情報や専門的な情報を提供するとともに、心理面のサポートを行います。	エ 遺伝カウンセリング外来の運営 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関してカウンセリングを行い、遺伝病等に関する詳しい情報や専門的な情報を提供するとともに、心理面のサポートを行います。		15	<p>【業務実績】 遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関して、遺伝カウンセリングを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝カウンセリング外来3件（前年度0件） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
オ 病児保育施設の設置・運営 市の子ども関連部局と連携し、病児対応型の病児保育施設を設置・運営します。	オ 病児保育施設の設置・運営 平成26年4月より、秋田市では初めてとなる病児対応型の病児保育施設を設置・運営します。		16	<p>【業務実績】 病児保育施設を開設し、運営しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育園「あすなろ」 定員 10名 開設日時 平日の7:00～18:00 利用者 611名 <p>-----</p> <p>【特記事項】 利用者アンケートでは、安心して仕事に行けた、預けられたと回答者全員から「利用して良かった」と回答をいただきました。</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(7) 高齢者に配慮した医療の充実 加齢に伴う認知症などの精神疾患や運動器障害など、いくつもの疾病を併せ持つ高齢者の増加への対応に努めます。 精神疾患に関しては、身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、従前同様にその機能を十分に果たすほか、もの忘れ外来において、認知症の早期発見・早期治療に努めます。 また、運動器障害に関しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出して、自立した生活への復帰を促します。</p>	<p>(7) 高齢者に配慮した医療の充実 総合診療科を開設し、専門各科と連携して、いくつもの疾病を併せ持つ高齢者等への対応に努めます。 また、長寿化に伴い高齢の精神病患者が増加していることから、身体合併症を有する精神疾患の対応病院として、その機能を十分に果たすほか、もの忘れ外来において、認知症の早期発見・早期治療に努めます。 さらに、運動器障害を有する高齢者に対しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出し、自立した生活への復帰を促します。 また、ロコモティブシンドロームについての予防医学的なりハビリテーションの展開を図ります。</p>		17	<p>【業務実績】 日本内科学会総合内科専門医を科長とした総合診療科（院内標ぼう）を開設し、いくつもの疾病を併せ持ち診療科を決定しにくい高齢者等の初診患者に対する全人的医療を提供しました。 また、秋田周辺医療圏において精神科閉鎖病棟をもつ唯一の総合病院として、身体合併症を有する精神科患者の受入れを行ったほか、認知症の早期発見・早期治療に資するため、もの忘れ外来を継続しました。 また、運動器障害患者に対しては、入院早期からリハビリテーションを積極的に実施し、その後は、医療機能分化による地域医療機関への逆紹介を行ったほか、ロコモティブシンドロームを題材とした健康講座を開催するなど疾病の予防啓発に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科受診者数 16人（前年度11人） ・精神科身体合併症入院 65件（前年度67件） ・もの忘れ外来受診者数 192人（前年度93人） ・運動器リハビリテーション 13,663件（前年度14,094件） <p>【特記事項】 もの忘れ外来受診者が大幅に増加しました。</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(8) 患者の視点に立った医療の実施 患者や家族が納得して医療を受けられる体制を維持するとともに患者サービスの向上を図ります。</p> <p>ア 患者や家族の権利の尊重 患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図ります。 また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院又は他の医療機関の患者が主治医とは別の意見を求めた場合には、引き続きセカンドオピニオンの要望に適切に対応します。</p>	<p>(8) 患者の視点に立った医療の実施 患者や家族が納得して医療を受けられる体制を維持するとともに患者サービスの向上を図ります。</p> <p>ア 患者や家族の権利の尊重 患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図ります。 また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院の患者が主治医とは別の意見を求める場合には、必要な資料や画像等を貸出しするとともに、他の医療機関の患者に対しては、セカンドオピニオン外来により適切に対応します。</p>		18	<p>【業務実績】 患者の権利を尊重するため、院内に患者の権利ワーキンググループを設置し、インフォームドコンセントのさらなる充実や個人情報の保護等について検証しました。 また、患者サポート相談窓口を引き続き常設し、週1回開催している患者サポート会議で検討するなど患者支援に取り組みました。 また、患者自身が検査や治療方針に関して自らの意思で決定できるようにセカンドオピニオンについて、院内掲示やホームページへの掲載を行い、周知に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドオピニオン 他院の患者が当院医師に意見を求めた場合 7件（前年度10件） 当院の患者が他院医師に意見を求めた場合 19件（前年度23件） <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由																				
<p>イ 患者サービスの向上</p> <p>(7) 患者待ち時間の短縮 毎年、待ち時間調査を行った上で、業務の流れの見直しなどを行うとともに、地域医療連携を推進して地域医療機関と役割分担を行い、外来患者数の適正化により、患者の待ち時間の短縮を図ります。</p>	<p>イ 患者サービスの向上</p> <p>(7) 患者待ち時間の短縮 患者待ち時間調査を行い、医療機能・患者サービス向上委員会において待ち時間の短縮および待ち時間の苦痛軽減策についての検討を行います。</p>		19	<p>【業務実績】 平成27年3月の電子カルテの導入に合わせ予約枠の適正化を行ったほか、病状が落ちついた患者の逆紹介を進めました。患者待ち時間調査は、予約枠適正化の実施前の平成26年11月上旬と実施後の平成27年4月上旬に行いました。その結果、予約患者の受付から診察開始までの待ち時間は、平成26年11月が平均1時間41分、4月が平均1時間19分と22分短縮しております。また、診察終了から会計までの待ち時間が殆どなくなったと好評をいただいております。 また、新たに会計窓口での番号表示を実施したほか、引き続き院内情報テレビでの情報発信を行うなど、待ち時間の苦痛軽減に取り組みました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV																					
<p>(4) 患者満足度調査の実施 毎年、入院患者と外来患者に対して患者満足度調査を実施し、その分析を行って患者サービスの向上に活かします。</p> <p>【中期計画目標指標】 入院患者満足度（満足+やや満足）：100.0% 外来患者満足度（満足+やや満足）：100.0%</p>	<p>(4) 患者満足度調査の実施 入院患者と外来患者に対して患者満足度調査を実施し、医療機能・患者サービス向上委員会においてその分析と患者サービスの向上についての検討を行います。</p>	<p>【26年度計画目標指標】 入院患者満足度（満足+やや満足）：98.5% 外来患者満足度（満足+やや満足）：90.0%</p>	20	<p>【業務実績】 患者満足度調査を実施し、医療機能・患者サービス向上委員会において分析・検討を行い、接遇改善への取り組みやプライバシー保護の強化など患者サービスの向上に努めました。改善に繋がりました。 なお、その結果は院内掲示およびホームページへの掲載により周知に努めました。</p> <p>→入院患者満足度（満足+やや満足）：95.2%（前年度98.5%） →外来患者満足度（満足+やや満足）：90.9%（前年度86.0%）</p> <p>患者満足度調査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>調査対象</th> <th>満足</th> <th>まあまあ満足</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>1,315</td> <td>689</td> <td>506</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>入院①</td> <td>447</td> <td>289</td> <td>137</td> <td>95.3%</td> </tr> <tr> <td>入院②</td> <td>429</td> <td>284</td> <td>124</td> <td>95.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 外来満足度は計画を達成できたが、入院満足度は計画に満たなかったことによる。</p>	区分	調査対象	満足	まあまあ満足	満足度	外来	1,315	689	506	90.9%	入院①	447	289	137	95.3%	入院②	429	284	124	95.1%	III	
区分	調査対象	満足	まあまあ満足	満足度																						
外来	1,315	689	506	90.9%																						
入院①	447	289	137	95.3%																						
入院②	429	284	124	95.1%																						

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ウ) 接遇に関する研修の実施 患者等の立場に立った、心のこもった接遇が実践できるよう職員に対して接遇研修を実施します。	(ウ) 接遇に関する研修の実施 患者等の立場に立った、心のこもった接遇が実践できるよう全職員を対象に全体での接遇研修を実施するほか、必要に応じて各部門においても実践的な接遇研修を実施します。		21	<p>【業務実績】 全体研修として院外講師による研修および新規職員に対する合同研修を2回開催しました。平成27年度には各部門に接遇リーダーを育成し、部門別研修をすすめる予定としております。 その他、年2回「接遇自己チェック表」により行動評価を行い、自己改善に努めました。 —医療分野専門の院外講師による身だしなみや院内環境等の基本的部分の確認を中心とした接遇研修を行いました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
(I) 院内環境の整備 患者や来院者に快適な環境を提供するため、施設設備の整備や修理を計画的に実施します。	(I) 院内環境の整備 患者や来院者に快適な環境を提供するため、施設設備の整備や修理を計画的に実施するほか、院内に絵画を展示します。		22	<p>【業務実績】 計画的に施設設備の整備や修理を実施しました。 また、絵画や患者から寄贈された写真等を院内に掲示したほか、病院の周りに季節毎に花苗を植えるなど明るく清潔感のある環境整備に努めました。</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
(オ) 病院ホームページの充実 来院者があらかじめ病院に関する情報を入手し、安心して病院を利用できるよう、ホームページに掲載する病院案内や治療実績等の情報を充実させます。	(オ) 病院ホームページの充実 来院者があらかじめ病院に関する情報を入手し、安心して病院を利用できるよう、ホームページに掲載する病院案内や治療実績等の情報を充実させ、随時および定期的に更新します。		23	<p>【業務実績】 地方独立行政法人化にあわせて、利用者視点で必要情報に容易にアクセスでき、かつ特別な知識がなくても簡単に運用できることをコンセプトにホームページを全面リニューアルしました。また、院内教室やキャンサーボードなどのイベント情報の告知や各種入札情報、職員採用案内など随時、情報更新を行いました。</p> <p>【特記事項】 平成26年度アクセス数 671,193件、一日平均1,839件 (前年度 392,896件、一日平均1,076件)</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(カ) 院内行事の実施 院内において音楽会や病院祭を開催し、患者等に安らぎや喜びの場を提供します。	(カ) 院内行事の実施 院内において音楽会や病院祭を開催し、患者や市民へ安らぎや喜びの場を提供します。		24	<p>【業務実績】 病院祭では、恒例の「憩いのコンサート」のほか、バザーや健康相談などいろいろなイベントを企画し、多数の来場がありました。</p> <p>・平成26年度病院祭 平成26年11月15日（土） 参加者数 約300人 主なイベント 第12回いこいのコンサート、なんでも健康コーナー、救急救命体験コーナー、医療機器見学コーナー、バザーコーナーなど</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
(9) 病院改築等に関する調査、検討 病院建物は、全面改築後29年が経過し、施設・設備の老朽化が進むとともに、医療の高度化・専門化等に伴うスペースが確保できないなどの問題も見られるようになってきました。 当院が目指す医療の充実や施設のアメニティ向上を図るため、病院の改築等に関して、将来を見据えた調査、検討を行います。	(9) 病院改築等に関する調査、検討 改築後の病院施設の規模や機能の検討の前段階として、秋田周辺医療圏の医療需要の動向を見定め、将来における当院のあり方についての検討に着手します。		25	<p>【業務実績】 平成27年度から病院改築等について院内に建設検討委員会を設けて検討を行うため、地区別患者数や将来の想定患者数の予測値などの基礎データの収集を行いました。こととしました。</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、医療需要の動向調査については、厚生労働省から年度内に発表される予定だった医療需要の予測データが出なかったため、詳細な検討ができなかった医療需要の動向調査が十分でなかったことによる。</p>	III	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>2 医療に関する調査および研究 治療実績や医療に関する情報の蓄積・管理に努めるとともに、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究を進めます。</p> <p>また、新薬の開発等へ貢献し、治療の効果と安全性を高めるため、積極的に治験を実施するよう努めます。</p>	<p>2 医療に関する調査および研究 院内がん登録やICD疾病登録など、治療実績や医療に関する情報の蓄積・管理を行うとともに、研究の用に供するためそれらの情報を医師等に提供します。</p> <p>また、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究について、倫理委員会の承認を受けた上で実施します。</p> <p>さらには、新薬の開発等へ貢献し、治療の効果と安全性を高めるための治験を治験審査委員会の承認を受けた上で実施し、審査結果についてはホームページで公表します。</p>		26	<p>【業務実績】 がん登録室および診療情報室が中心となって、院内がん登録やICD疾病登録を行ったほか、学会発表や各種調査資料の基礎データとして医師等に情報提供しました。</p> <p>また、診断や治療など臨床に応用するための臨床研究については、倫理委員会で、治験については、治験審査委員会でそれぞれ審査・承認を受けた上で実施しました。</p> <p>なお、治験審査結果については、随時ホームページで公表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内がん登録 814件（前年度875件） ・倫理委員会 20件承認（前年度23件承認） ・治験審査委員会 61件承認（前年度46件承認） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>3 人材の確保と育成 良質で安全な医療を提供し、市立病院が担うべき医療機能を充実させるために必要な人材の確保と育成を図ります。</p> <p>(1) 医療職の人材の確保 優秀な医療職の人材を確保するため、効果的な情報発信やPRを実施するとともに、院内保育所の運営など、職員の働きやすい就労環境の充実に努めます。</p> <p>また、医師や看護師が本来の業務に専念できるよう、医師事務作業補助者や看護補助者の増員を図ります。</p> <p>ア 医師 大学等の関係機関と連携を進め、引き続き医師の確保に努めるとともに、教育研修プログラムの一層の充実により臨床研修医の確保を図ります。</p>	<p>3 人材の確保と育成 良質で安全な医療を提供し、市立病院が担うべき医療機能を充実させるために必要な人材の確保と育成を図ります。</p> <p>(1) 医療職の人材の確保 優秀な医療職の人材を確保するため、ホームページ等様々なメディアによる効果的な情報発信やPRを実施するとともに、院内保育所の運営など、職員にとって働きやすい就労環境の充実に努めます。</p> <p>また、医師や看護師が本来の業務に専念できるよう、医師事務作業補助者の増員を図ります。</p> <p>ア 医師 大学等の関係機関と連携を進めるとともに、一定の条件を満たす医師については正職員化を図り、医師の確保に努めます。</p> <p>また、教育研修プログラムの一層の充実により、臨床研修医の確保を図ります。</p>		27	<p>【業務実績】 医師の確保について大学医局への働きかけを継続して行ったほか、一定の条件を満たす医師について正職員化しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託職員の正職員化 3名 <p>-----</p> <p>【特記事項】 研修医について研修医向けの説明会や大学OBの勧誘などを積極的に行った結果、秋田市内の病院では唯一2年連続フルマッチとなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修医マッチング 8名募集8名マッチング（前年度10名募集10名マッチング） <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 嘱託医師の正職員化や臨床研修医のフルマッチにより医師を確保出来たことによる。</p>	V	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
イ 看護師 看護師養成機関との連携や就職説明会の開催、採用試験の複数回実施等により、看護師の確保に努めます。	イ 看護師 看護師養成機関との連携や就職説明会の開催、採用試験の複数回実施等により、看護師の確保に努めます。		28	<p>【業務実績】 看護学校の病院実習を積極的に受け入れるとともにインターンシップや病院見学会の開催により、多くの看護学生にPRを行いました。 また、積極的に就職説明会へ参加したほか、採用試験を複数回開催するなど看護師の確保に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18人募集17人採用（前年度25人募集25人採用） ・看護実習受入 91人（前年度87人） ・病院見学およびインターンシップ参加 24人（前年度18人） ・就職説明会参加回数 6回（前年度5回） ・採用試験実施回数 3回（前年度3回） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
ウ 医療技術者 医療環境や業務量の変化に応じた柔軟な医療技術者の確保および配置に努めます。	ウ 医療技術者 医療環境や業務量の変化を見極め、それぞれの職種において適正な人員の配置に努めます。	【26年度計画目標指標】 医師事務作業補助者：17人 （注）3月1日時点	29	<p>【業務実績】 臨床工学技士3名、理学療法士1名など、医療技術者を増員しました。 また、医師事務作業補助者を増員し、医師の負担軽減を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者 19人（前年度17人） <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
(2) 人材育成 医療職職員について、医療等の専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等への積極的な参加を促すとともに、職務上必要な専門資格や認定資格の取得の支援に努めます。 また、事務職職員についても、医療に関する知識の向上のため、研修会への積極的な参加や資格取得を促します。	(2) 人材育成 職員研修規程に基づく組織的な研修実施体制により、職員全員に対し、それぞれの職種や職責に応じた研修を実施するとともに、医療等の専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等への積極的な参加を促します。 また、職務上必要な専門資格や認定資格の取得の支援に努めます。		30	<p>【業務実績】 職員研修規程に基づき、保険診療や医療安全、院内感染等の研修を実施したほか、専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、学会や研修会等へ積極的に参加しました。 また、職務上必要な専門資格や認定資格の取得を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得支援 がん薬物療法認定薬剤師2名、感染制御認定薬剤師1名、乳がん看護認定看護師1名ほか <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>4 地域医療への貢献 地域の医療機関等との連携を強化するとともに、研修医の受入れ等により医療従事者の育成に努めるなど地域医療に貢献します。</p> <p>(1) 地域の医療機関等との連携強化 地域の急性期病院として、かかりつけ医をはじめとした地域の医療機関との連携を図り、紹介による急性期患者の受入れや急性期を脱した患者の逆紹介を推進し、機能分担を図るとともに、地域医療支援病院として承認されることを目指します。 また、退院後の療養に資するため、必要に応じて、福祉機関や保健機関、介護施設等とも連携を図ります。 さらには、地域連携クリティカルパスを適用する疾患の拡大を図り、それぞれの機能・役割を担う医療機関の間で共有することにより、患者にとって切れ目のない円滑な医療提供体制の実現に努めます。</p>	<p>4 地域医療への貢献 地域の医療機関等との連携を強化するとともに、研修医の受入れ等により医療従事者の育成に努めるなど地域医療に貢献します。</p> <p>(1) 地域の医療機関等との連携強化 当院が主催する「地域医療連携の会」を年2回開催するとともに地域医療連携誌「らしん盤」の年2回発行などにより、地域の急性期病院として、かかりつけ医をはじめとした地域の医療機関との連携強化に努めます。 そして、紹介による急性期患者の受入れや急性期を脱した患者の逆紹介を一層推進するほか、必要に応じて、福祉機関や保健機関、介護施設等とも連携を図ります。</p>		31	<p>【業務実績】 地域医療連携の会を開催するとともに、地域医療連携らしん盤を年2回発行し、会員253施設に配布するなど地域の医療機関との連携強化に努めました。 また、市立病院の病床の一部を開放型病床として、地域の医療機関と共同利用するための体制整備を行ったほか、理事長による医療機関や介護施設の訪問により連携強化を図りました。</p> <p>・地域医療連携の会 2回開催、205名参加（前年度2回開催、170名参加） ・地域医療支援病院紹介率29.2 32.4%（前年度22.7 37.9%）、逆紹介率119.9 105.6%（前年度107.1 103.8%）</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(2) 教育研修の推進 地域の医療を担う医療従事者の育成に貢献するため、研修医や医療教育機関からの実習生の受入れを行うほか、専門医等の育成に努めます。</p> <p>ア 研修医の育成 教育研修プログラム等の一層の充実を図り、臨床研修指定病院として、研修医の技術・知識の向上に寄与します。</p>	<p>(2) 教育研修の推進 地域の医療を担う医療従事者の育成に貢献するため、研修医や医療教育機関からの実習生の受入れを行うほか、専門医等の育成に努めます</p> <p>ア 研修医の育成 教育研修プログラム等の一層の充実を図り、臨床研修指定病院として、研修医の技術・知識の向上に寄与します。</p>		32	<p>【業務実績】 臨床研修医の意見を受け、より幅広い臨床経験を得られるよう協力型臨床研修病院および臨床研修協力施設を追加したほか、他院からの臨床研修医の受入れ人数との兼ね合いから募集人数の適正化を図るなど、臨床研修プログラムの見直しを行いました。</p> <p>【臨床研修プログラムの主な変更内容】 ・協力型臨床研修病院に秋田厚生医療センター（総合診療科）を追加 ・臨床研修協力施設に独立行政法人国立病院機構あきた病院（地域医療）を追加 ・募集人数を10人から8人に変更</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
イ 実習生の受入れ 秋田大学医学部、秋田市医師会立秋田看護学校等の実習病院として、次世代を担う医師・看護師の教育に努めるとともに、医療技術者の育成のため、薬剤部・栄養室・リハビリテーション科等においても実習生の受入れに努めます。	イ 実習生の受入れ 秋田大学医学部、秋田市医師会立秋田看護学校等の実習病院として、次世代を担う医師・看護師の教育に努めるとともに、医療技術者の育成のため、薬剤部・栄養室・リハビリテーション科等においても実習生の受入れに努めます。		33	【業務実績】 将来の医療従事者を目指す県内外の実習生の受入れを行いました。 ・医学生 151人（前年度106人） ・看護学生 91人（前年度87人） ・その他実習生 49人（前年度26人） ・救急隊等 19人 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
ウ 専門医等の育成 学会又は日本専門医機構が認定する専門医の研修施設として、専門医の育成に努めるなど、地域における医療の中核となる人材の育成を図ります。	ウ 専門医等の育成 各種学会が認定する専門医の研修施設として、専門医の育成に努めるなど、地域における医療の中核となる人材の育成を図ります。		34	【業務実績】 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医や乳がん検診制度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医等の資格取得を支援するなど人材の育成に努めました。 新たに日本輸血・細胞治療学会が認定するI & A認証施設（※）として認定を受けたほか、外国医師等臨床修練病院として厚生労働大臣の指定を受けました。 ・専門医等の研修施設認定 36件（前年度35件） ※I & A 認証施設 日本輸血・細胞治療学会が適切な輸血管理を行う機関として点検・認証した施設 【特記事項】 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。	IV	
(3) 市民への保健医療情報の提供・発信 市民の健康づくりを推進するため、各種院内教室や健康講座を実施するとともに、保健所等、市の関係機関と連携して出前講座を実施し、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めます。 【中期計画目標指標】 院内教室等実施回数：40回 出前講座実施回数：12回	(3) 市民への保健医療情報の提供・発信 市民の健康づくりを推進するため、各種院内教室や健康講座を実施するとともに、保健所や公民館など市の関係機関と連携して出前講座を実施し、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めます。	【26年度計画目標指標】 院内教室等実施回数：36回 出前講座実施回数：10回	35	【業務実績】 院内教室や市民公開講座を開催したほか、市の関係機関等と連携して地域の健康イベント等に積極的に参加（出前講座）しました。 ・院内教室 46回（前年度41回） ・出前講座実施回数 37回（前年度29回） 【特記事項】 保健所と連携し広報あきたへ「健康ライフ太鼓判」の連載を開始し、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めました。 ・健康ライフ太鼓判 2回掲載 【自己評価の理由】 院内教室および出前講座を計画以上に実施できたことによる。	V	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>5 災害時の体制強化 大規模な災害や事故などの発生時に被災地に駆けつけ救急医療を行うために組織した災害派遣医療チーム（DMAT）の充実を図り、2チーム体制を目指します。</p> <p>また、災害時には、災害協力医療機関として、秋田市保健所・秋田市医師会等の関係機関や災害拠点病院と協力して対応に当たることとし、災害時対応訓練の強化と災害備蓄品の整備を行います。</p> <p>さらには、病院間災害支援協定を締結している仙台市立病院および山形市立病院済生館との連携を維持し、災害時の人的・物質的援助を優先的に提供しあうこととします。</p>	<p>5 災害時の体制強化 大規模な災害や事故などの発生時に被災地に駆けつけ救急医療を行うために組織した災害派遣医療チーム（DMAT）の充実を図り、2チーム体制を目指します。</p> <p>また、災害時には、災害協力医療機関として、秋田市保健所・秋田市医師会等の関係機関や災害拠点病院と協力して対応に当たることとし、院内での災害時対応訓練を強化するとともに3日分以上の災害備蓄品を確保します。</p> <p>さらには、病院間災害支援協定を締結している仙台市立病院および山形市立病院済生館との連携を維持し、災害時の人的・物質的援助を優先的に提供しあうこととします。</p>		36	<p>【業務実績】 災害協力医療機関として、秋田県および秋田市の総合防災訓練へ参加したほか、秋田市消防本部との合同研修を実施しました。</p> <p>また、院内防火・防災ワーキンググループを開催し、災害発生時の院内対応を検証しました。</p> <p>DMATの技能維持訓練や参集訓練に参加したほか、DMATの2チーム化に向け準備を行いました。</p> <p>また、3日分以上の災害備蓄品を確保しました。</p> <p>・DMAT出勤待機 1件（前年度出勤1回）</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、DMATの2チーム体制はできなかったことによる。</p>	Ⅲ	
<p>第3 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営企画・分析力の向上 研修や資格取得などにより、医療に関する事務について高い専門性を持つ人材を育成するとともに、病院経営に関する知識や経験を有する人材の採用などにより、事務部門における経営企画・分析力の向上を図り、経営の強化に繋がります。</p>	<p>第2 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営企画・分析力の向上 経営企画室を設置し、経営戦略的な観点から業務を推進できる職員を配置して経営企画・分析力の向上を図り、経営の強化に繋がります。</p> <p>また、平成26年度においても職務経験者採用を行い、病院経営に関する知識や経験を有する人材の確保を図ります。</p>		37	<p>【業務実績】 経営企画室を設置し経営情報担当部門の一元化を図るとともに、経営改善に向けた各種検討事項の調整を行いました。</p> <p>【特記事項】 事務職員について、医療事務や情報システム分野に精通した人材を採用しました。</p> <p>・事務系職務経験者採用 5名（前年度5名）</p> <p>【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、十分な経営分析までは至らなかったことによる。</p>	Ⅲ	
<p>2 外部評価 現在認定を受けている公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の次回更新（平成27年度）に向けて、患者サービス・医療機能向上委員会が中心となって、更なる医療の質の向上とサービスの改善を図ります。</p> <p>なお、次回更新時の審査結果については、ホームページで公表し、市民の信頼の確保に努めます。</p>	<p>2 外部評価 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の次回更新（平成27年度）に向けて、患者サービス・医療機能向上委員会内に病院機能評価の受審準備のための専門部会を設置し、当院が提供する医療の質と患者サービスについての点検を行います。</p>		38	<p>【業務実績】 平成27年度の病院機能評価の更新に向け、各分野毎に自己評価を行ったうえで院内に8つのワーキング・グループを設け、その評価の妥当性や問題点を検証するなど、医療の質と患者サービスについて点検を行いました。</p> <p>・ワーキング・グループ 患者の権利、地域連携、医療安全、質改善、療養環境、診療・ケアの質と安全、チーム医療、情報管理</p> <p>【特記事項】</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	Ⅳ	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>3 効率的な診療体制の構築 電子カルテシステムを導入し、各部門間において患者情報を共有化することにより、医療の提供の効率化を図ります。 また、院内のクリティカルパス（クリニカルパス）の一層の推進を図ることなどにより、部門や職種を超えた職員のスムーズな連携のもと、チーム医療による効果的・効率的な医療を実施します。</p>	<p>3 効率的な診療体制の構築 電子カルテシステムを導入し、各部門間において患者情報を共有化するとともに、PACS（画像保存通信システム）等と接続して、医療提供の効率化を図ります。 また、院内のクリティカルパス（クリニカルパス）について、電子カルテシステムへの対応を図るとともに内容の見直しを行い、医療の標準化を推進します。</p>		39	<p>【業務実績】 平成27年3月から電子カルテを導入し、それに画像診断などの主要部門のシステムを接続したことで患者の医療情報を常に最新の状態で共有が可能となりました。 また、クリティカルパスの電子カルテへの移行については、使用頻度の高いものから順次適用を開始し、医療の標準化を進めました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、平成27年3月の患者数が入院10,556人（27年度2月までの月平均10,853人）、外来20,953人（27年度2月までの月平均25,450人）とシステム切替時の患者減少等が大きかったことによる。</p>	Ⅲ	
<p>4 経費の節減 複数年契約や複合契約等の多様な契約手法により購入価格の引下げを図るとともに、可能な限り後発医薬品（ジェネリック医薬品）への切替えを推進し、経費の節減に努めます。</p> <p>【中期計画目標指標】 医薬収益に対する診療材料費割合（税抜き）：10.0% 医薬収益に対する薬品費割合（税抜き）：11.0%</p>	<p>4 経費の節減 契約に際しては、競争性を確保しつつ、提案方式による業者選定、複数年契約、事業種類を組み合わせた複合契約など多様な契約手法を活用し、契約金額の圧縮に努めます。 また、安全性や供給安定性に配慮しつつ、可能な限り後発医薬品への切替えを推進し、経費の節減に努めます。</p>	<p>【26年度計画目標指標】 医薬収益に対する診療材料費割合（税抜き）：10.1% 医薬収益に対する薬品費割合（税抜き）：11.6% 後発医薬品使用率（数量ベース）：60.0%</p>	40	<p>【業務実績】 診療材料に係る在庫圧縮などの経費節減に向け、提案方式による業者選定を行いました。 また、医薬品については、積極的に後発品の切替を行い経費節減に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬収益に対する診療材料費割合（税抜き）9.7%（前年度10.3%） ・ 医薬収益に対する薬品費割合（税抜き）11.8%（前年度12.1%） ・ 後発医薬品使用率（数量ベース）71.8% <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	Ⅳ	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>5 医業収入の確保 診療報酬改定等の制度改正への迅速かつ適切な対応や未収金対策の強化により、医業収入の確保に努めます。</p> <p>(1) 診療報酬請求事務の体制強化 診療報酬の請求を担当する職員に対する専門研修の実施や医療事務の経験が豊富な人材の採用などにより、診療報酬改定等に迅速かつ適切に対応することができる体制を構築し、診療報酬の請求漏れや減点等の防止を徹底することなどにより医業収入の確保に努めます。</p>	<p>5 収入の確保 診療報酬改定等の制度改正への迅速かつ適切な対応や未収金対策の強化により医業収入の確保に努めます</p> <p>(1) 診療報酬請求事務の体制強化 診療報酬請求事務を行っている委託業者を指導できる高い専門知識を持つ職員を採用又は育成し、診療報酬改定等に迅速かつ適切に対応することができる体制を構築して診療報酬の請求漏れや減点等の防止を徹底するよう努めます。</p>		41	<p>【業務実績】 診療報酬請求に関する専門知識を持つ職員を採用し、診療報酬請求事務の強化を図りました。 また、診療報酬請求についての理解を深めるため、院外講師を招き保険診療講習会を2回開催したほか、医師対象のカルテ記載勉強会を開催しました。 また、診療報酬請求の減点事例について内容分析し、その対応策を科長会議や医局会で検討し、再発防止に努めました。</p> <p>・医事課配属職務経験者 3名</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>(2) 未収金対策の強化 患者に対する入院時の説明の徹底や院内連携により未収金の発生防止に努めるとともに、未収金が発生した場合には、早期回収のため、督促や訪問回収に加え、法的措置の対応も引き続き行います。</p> <p>【中期計画目標指標】 個人分徴収率（現年度分）：99.0% （注）次年度5月末日時点</p>	<p>(2) 未収金対策の強化 入院時における医療費の支払いについての説明を徹底するとともにクレジットカード決済を継続し、未収金の発生防止に努めます。 また、未収金が発生した場合には、債権管理規程および未収金対策マニュアルに基づき、未納者に対して督促等を行い、一定の期間が経過しても納付がなされない場合には、必要に応じて支払督促の申立て等の法的措置を行い未収金の回収に努めます。</p>	<p>【26年度計画目標指標】 個人分徴収率（現年度分）：98.4% （注）次年度5月末日時点</p>	42	<p>【業務実績】 入院時の概算費用の提示や高額療養費制度等について説明を徹底したほか、クレジットカード決済を継続し、未収金の発生防止に努めました。 未収金が発生した患者に対しては、分割払いなどの納入相談を実施したほか、必要に応じて支払督促の申立て等の法的措置を行いました。</p> <p>・個人分徴収率（現年度分）：97.8%（前年度98.1%） （注）次年度5月末日時点</p> <p>----- 【特記事項】 回収困難な過年度分の債権回収業務を弁護士事務所に委託し、未収金の回収に努めました。</p> <p>----- 【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、個人分徴収率が下がったことによる。</p>	III	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
	(3) 7:1入院基本料の要件変更への対応 平成26年度診療報酬改定に伴う7:1看護基準の変更に対応し、7:1入院基本料を維持して、収入の確保を図ります。		43	<p>【業務実績】 平成26年度診療報酬改定に伴う7:1看護基準の変更に対応し、7:1入院基本料を維持して、収入の確保に努めました。</p> <p>主な変更点 ・在宅復帰率要件の新設 ・医療看護必要度の内容見直し等</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
	(4) 医業外収入の確保 病院資産を有効活用するなど、新たな収入の確保のための検討を行い、実施可能なものについては、具体的な取り組みを進めます。		44	<p>【業務実績】 病院資産を有効活用し売店運営者を公募型プロポーザル方式で選定した結果、建物貸付収入が増加しました。</p> <p>・建物貸付収入（売店） 5,284千円（前年度3,825千円）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画および資金計画 公立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、市からの運営費負担金等の交付の下、「第3 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」を着実に実行し、中期目標期間中の経常収支比率について100%以上を堅持し、安定した財務基盤を確立します。	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画および資金計画		45	<p>【業務実績】 財務諸表および決算報告書を参照</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>第10 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 法令・行動規範の遵守 医療法をはじめとする各種関係法令や臨床倫理に係るガイドライン等を遵守し、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、病院内の倫理委員会又は治験審査委員会において十分な検討を行います。 また、患者の個人情報の保護と患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例（平成17年秋田市条例第11号）および秋田市情報公開条例（平成9年秋田市条例第39号）に基づき適切に対応します。 なお、職員の倫理と行動規範については、その確立のため、倫理やサービスに関する規程を整備し、職員にその周知徹底を図ります。</p>	<p>第8 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 法令・行動規範の遵守 医療法をはじめとする各種関係法令や臨床倫理に係るガイドライン等を遵守し、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、病院内の倫理委員会又は治験審査委員会において十分な検討を行います。 また、患者の個人情報の保護および患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例（平成17年秋田市条例第11号）および秋田市情報公開条例（平成9年秋田市条例第39号）に基づき適切に対応します。 なお、職員の倫理と行動規範については、その確立のため、職員倫理規程および職員サービス規程を策定して職員に周知徹底を図るとともに、全職員を対象にコンプライアンス研修を実施します。</p>		46	<p>【業務実績】 医療法をはじめとする各種関係法令を遵守のうえ、倫理的な問題を含むと思われる医療行為については、倫理委員会又は治験審査委員会において検討し承認を受けた上で実施しました。 また、患者の個人情報の保護および患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例に基づき適切に対応しました。 さらに、職員の倫理と行動規範について職員倫理規程および職員サービス細則を策定し、職員に周知徹底を図りました。 なお、全職員を対象としたコンプライアンス研修は実施できませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会 20件承認（前年度23件承認） ・治験審査委員会 61件承認（前年度46件承認） <p>情報開示 ・個人情報開示 2件（前年度5件） ・情報公開 0件（前年度0件）</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。 概ね年度計画どおりに実施できたが、コンプライアンス研修を実施できなかったことによる。</p>	Ⅳ Ⅲ	
<p>2 新たな人事制度の構築と就労環境の整備 職員の意欲を高め、能力を最大限に発揮させるため、新たな人事制度を構築するとともに、職員の就労環境の整備を図ります。</p> <p>(1) 新たな人事制度の構築 職員の勤務成績等を適正に評価する人事評価制度やその評価結果を反映する給与制度などについて検討し、次期中期目標期間からの導入に向け、その準備を進めます</p>	<p>2 新たな人事制度の構築と就労環境の整備 職員の意欲を高め、能力を最大限に発揮させるため、新たな人事制度構築のための準備を行うとともに、職員の就労環境の整備を図ります。</p> <p>(1) 新たな人事制度の構築 職員の勤務成績等を適正に評価する人事評価制度やその評価結果を反映する給与制度などの次期中期目標期間からの導入に向けて、先行病院の調査等に着手します。</p>		47	<p>【業務実績】 新たな人事制度構築のため、情報収集に努めました。 秋田市の人事評価制度を活用し、事務職員および医師を除く医療職員に自己評価と所属長による面接を実施しました。</p> <p>----- 【特記事項】 ----- 【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、具体的な取り組みまでは至らなかったことによる。</p>	Ⅲ	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>(2) 就労環境の整備 地域医療を守る使命を全ての職員が共有し、一体となって質の高い医療を提供できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した就労環境の整備に努めます。 ア 多様な勤務形態について検討し、職員にとって働きやすく、働きがいのある就労環境の整備に向けての取組を推進します。</p>	<p>(2) 就労環境の整備 地域医療を守る使命を全ての職員が共有し、一体となって質の高い医療を提供できるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した就労環境の整備に努めます。 ア 短時間勤務正職員や夜勤専門看護師の制度について検討するとともに、病棟看護師の勤務シフトについての検討を行います。 また、育児休業、介護休業などの福利厚生制度についての周知を図るため、説明会等を実施するほか、必要な情報をいつでも閲覧できるようホームページに職員専用サイトを設けます。</p>		48	<p>【業務実績】 病棟看護師の勤務シフトについての検討を行いました。 また、福利厚生制度について、新規職員には採用時研修で説明を行ったほか、在職者については、必要な情報をどこでも入手できるようにホームページ上に職員専用サイトを設け、周知に努めました。 そのほか夏期休暇の取得期間を6月から10月までに延長したほか、休日出勤について振替を推奨するなどワーク・ライフ・バランスに配慮した就労環境の整備を行いました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>イ 院内保育所を設置・運営し、職員の育児を支援します。</p>	<p>イ 院内保育所を設置・運営し、職員の育児を支援します。</p>		49	<p>【業務実績】 院内保育園を開設し、職員の育児支援を行いました。</p> <p>・院内保育園「こどもの国」 定員 20名 開設日 年中無休 保育時間 7:00～18:00（延長保育21:00）、週3日 24時間保育実施 平成26年度利用者 13名（0歳児12名、1歳児1名）</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	
<p>ウ 職員の健康保持のため、メンタルヘルスを含む健康相談体制を整備します。</p>	<p>ウ 職員の健康保持のため、産業医等によるメンタルヘルスを含む健康相談体制を整備するほか、衛生委員会を毎月開催します。</p>		50	<p>【業務実績】 院外の精神科医と業務委託契約を締結し、メンタルヘルスを含む健康相談体制を構築し、ホームページ上の職員専用サイトでも周知しました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 概ね年度計画どおりに実施できたが、衛生委員会を毎月開催できなかったことによる。</p>	III	

中期計画	26年度計画	年度計画評価指標	連番	26年度業務実績および自己評価の理由	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>3 移行前の退職給付引当金に関する事項 移行時に計上すべき退職給付引当金 3,080百万円については、移行時に職給付引当金2,000百万円を計上し、残りの額1,080百万円は中期目標期間内に全額を計上します。</p>	<p>3 移行前の退職給付引当金に関する事項 移行前の退職給付引当金の不足額1,080百万円のうち、平成26年度分として216百万円を計上します。</p>		51	<p>【業務実績】 移行前の退職給付引当金として216百万円を計上しました。</p> <p>-----</p> <p>【特記事項】</p> <p>-----</p> <p>【自己評価の理由】 年度計画どおりに実施できたことによる。</p>	IV	